

Ⅲ ^{かんきょう}環境についてもっと調べよう

1 ^{かんきょう}鹿沼市の環境問題への取り組み

鹿沼市では、令和4年3月に『第5次^{かんきょうきほん}鹿沼市環境基本計画』を作りました。この計画では、わたしたちの人やものを思いやる心がつながることで、美しい^{かんきょう}環境が^{しょうらい}将来も続いていくことを目指しています。

ここでは、その目標を^{たっせい}達成するために行っている、さまざまな取り組みを^{しょうかい}紹介します。

(1) きれいなまちづくり

①きれいなまちづくり^{すいしんいん}推進員

^{ちいき}地域のきれいなまちづくりのリーダーです。^{せいそう}清掃活動や^{ふほうとうき}不法投棄の^{かんし}監視などを行っています。各自治会に必ず1人以上が^{はいち}配置され、合計約230人の^{いらい}方に依頼しています。



^{ちいき}地域の美化活動リーダー
^{すいしんいん}きれいなまちづくり推進員

②^{かんきょう}環境美化を行う^{だんたい}団体への^{しえん}支援（きれいねっと鹿沼事業）



^{せいそう}道路清掃

^{ちいき}地域の^{せいそう}清掃活動を行っている^{だんたい}団体には、^{せいそう}ほうきなどの清掃用具を提供し、^{せいそう}地域の清掃活動を^{しえん}支援しています。

③^{かんきょう}環境美化の日

5月と9月の第3日曜日を「^{かんきょう}環境美化の日」としています。この日は、市民がみんなでまちをきれいにする活動を行っています。

令和7年度に持ち込まれたごみは、2日間で約850キロもあり、^{かんきょう}環境クリーンセンターなどで^{しより}処理しています。

(2) ^{かんきょう}環境学習

①^{しせつ}施設見学会

家庭などから出るごみを^{しより}処理している^{かんきょう}環境クリーンセンターと、^{はいすい}生活排水を^{しより}処理している^{じむしょ}下水道事務所を見学しながら、^{かんきょう}環境問題について学ぶことができます。



環境クリーンセンターの見学

②^{かんきょう}環境学習出前講座

^{おんだんか}地球温暖化やごみの問題などについて、市の^{しよくいん}職員や^{かんきょう}環境学習指導者「エコマイスター」が、^{きぎょう}学校や^{ちいき}企業、^{かんきょう}地域などに^{こうざ}出かけていき、^{かんきょう}環境学習の出前講座を行っています。



^{かんきょう}環境学習出前講座

③^{かんきょう}環境^{かいさい}関連イベントの開催

^{かんきょう}環境^{いしき}に対する意識の向上と地域課題の解決を図るためのイベント「エコライフ・フェア」を開催しています。

令和7年度は、環境クリーンセンターにおいて体験を通して環境について楽しく学んでいただきました。



エコライフ・フェア in クリーンセンター

④^{かんきょう}環境^{こうざ}学習講座



^{かんきょう}環境^{こうざ}学習講座

^{かんきょう}地球環境問題や^{かんきょう}鹿沼市の環境への取り組みなどについて学ぶ^{こうざ}講座です。これまで200人以上が受講しています。受講者の中には、環境学習指導者「エコマイスター」として活躍されている方もいます。

⑤自然生活体験学習

自然の中で生活し、生きものの観察やキャンプなどさまざまなプログラムを体験することで、自然^{かんきょう}環境とわたしたちの暮らしのかかわりについて学びます。



自然体験交流センター
わくわくネチャーランド（板荷）

(3) 地球温暖化対策

①地球温暖化対策実行計画の推進

市役所では、電気などの使用量やごみの排出量の把握、エコドライブの推進、ノー残業デーの実施などに取り組むことで、日々の業務で排出される二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量を減らす努力をしています。



鹿沼市役所（今宮町）

さらに、「いちご市プラごみ0運動」の下、マイバッグやマイボトル、マイはしの利用を推進し、プラごみをなるべく出さない生活を市民や市内の事業者と協力しながら進めています。

②再生可能エネルギーの導入

市では、再生可能エネルギーの導入を積極的に進めています。これまで、太陽光発電設備を市役所本庁舎やリサイクルセンターなど7か所に設置し、下水道事務所に消化ガス発電所、環境クリーンセンターのごみ焼却施設内に蒸気発電設備を整備しました。また、公園には太陽光や風力を利用した照明の設置を進めています。

さらに、太陽光発電設備や蓄電池を設置する家庭に対する支援も行っています。



太陽光発電設備（板荷コミュニティセンター）



公園灯（出会いの森総合公園）

③デコ活の普及啓発

「デコ活」とは、二酸化炭素（CO₂）を減らす（DE）脱炭素と、環境に良いエコ（Eco）を含む“デコ”と活動・生活を組み合わせた新しい言葉です。環境省では、2050年カーボンニュートラル及び2030年度削減目標の実現に向けて、国民・消費者の行動変容、ライフスタイルを強力に後押しする新しい国民運動のことです。



デコ活のロゴマーク



デコ活アクション まずはここから

- デ** 電気も省エネ 断熱住宅
- コ** こだわる楽しさ エコグッズ
- カ** 感謝の心 食べ残しゼロ
- ツ** つながるオフィス テレワーク



④2050年^{にさんかたんそはいしゅつじっしつ}二酸化炭素排出^{ひょうめい}実質ゼロの表明

^{ちきゅうおんだんかたいさく}地球温暖化対策の国際的な枠組みである「パリ協定」の達成のためには、2050年までに^{にさんかたんそ}二酸化炭素の^{はいしゅつりょう}排出量^{じっしつ}を実質ゼロにすることが必要といわれています。

石油やガソリンなどを使うことで^{にさんかたんそ}二酸化炭素が発生しますが、一方で森林などには^{にさんかたんそ}空気中の二酸化炭素を吸収する働きもあります。
^{にさんかたんそ}二酸化炭素の発生する量と吸収される量がつりあうことを、
^{はいしゅつりょうじっしつ}「排出量実質ゼロ」といいます。

2023年度現在、国内で栃木県など約1,000の県・市町村が表明しており、鹿沼市も「2050年までに^{にさんかたんそはいしゅつじっしつ}二酸化炭素排出実質ゼロを目指す」ことを表明し、^{ちきゅうおんだんかたいさく}地球温暖化対策をさらに推進していきます。

⑤鹿沼市^{きこうひじょうじたいせんげん}気候非常事態宣言

^{いじょうきしやう}「異常気象」による^{さいがい}災害が^{ぞうか}近年増加しています。^{いじょうきしやう}異常気象とはその名の通り、通常では考えられない^{げんしょう}現象のことを言います。しかし、最近では毎年のように何十年に一回レベルの災害が発生しており、もはや「異常」ではなくいつでも起こりうる^{じょうきやう}状況であります。

こうした災害は、^{ちきゅうおんだんか}地球温暖化によるものと言われており、ますますその対策が求められています。

これらの状況を打開するため、「^{きこうひじょうじたいせんげん}鹿沼市気候非常事態宣言」を^{はっしゅつ}発出しました。^{へんどう}気候が変動することで発生する災害や^{かんきやうもんだい}環境問題に対する^{ききかん}危機感を、市、市民、^{じぎやうしや}事業者等が^{きやうゆう}共有し、鹿沼の美しい自然環境を未来に残すため、また、^{いじょうきしやう}異常気象からいのちを守るため、「オールかぬま」で^{ちきゅうおんだんかたいさく}地球温暖化対策に取り組んでいくことが重要です。

みんなで力を合わせて、身近でできることから始めてみましょう！

かぬましきこうひじょうじたいせんげん 鹿沼市気候非常事態宣言

～持続可能な社会・いのちを守る社会の実現に向けて～

世界各地で頻発する異常気象は、地球温暖化などの気候変動が原因と言われており、国内でも、豪雨などの異常気象が増加しています。

きれいな水と緑に恵まれた本市は、この自然を未来に引き継ぐため、環境都市を宣言し、環境保全に取り組んできました。しかし、気候変動による気象災害は極めて深刻な脅威となってきました。

この脅威に対処するため、気候が非常事態にあるという危機感を、市、市民、事業者等が共有し、異常気象から市民のいのちを守る行動に「オールかぬま」で取り組む必要があります。

本市は、ここに気候非常事態を宣言するとともに、持続可能な社会といのちを守る社会を実現し、鹿沼の美しく豊かな自然環境を次世代に継承していくための行動として、次の3つのことに取り組みます。

- 1 気候が非常事態にあることを、市、市民、事業者等の共通認識とするための情報提供・普及啓発の充実を図ります。
- 2 自然環境の保護、ごみの削減及び二酸化炭素の排出抑制を推進し、2050年の「脱炭素社会」を目指します。
- 3 豪雨その他の異常気象から市民のいのちを守るための災害対策を強化します。

令和3年4月1日

鹿沼市長 佐藤 信

コラム2

～ 2050 年脱炭素 ～ どうすれば実現できるの！？

鹿沼市が、2050 年までに二酸化炭素排出の実質ゼロ（2050 年脱炭素）を実現するためには、次の目標を達成することが必要です。

1 二酸化炭素排出量の削減

平成 25 年度の排出量 830,048 トンから、それぞれ次の量を減らす必要があります。

令和 12（2030）年度までの目標	令和 32（2050）年度までの目標
<u>381,822 トンを削減！！</u> ○一般的な世帯の排出量でいうと  140,375 世帯分 ※鹿沼市（約 40,000 世帯）×3.5 倍 ○オスのアフリカ象に置き換えると  63,637 頭分	<u>781,424 トンを削減！！</u> ○一般的な世帯の排出量でいうと  287,288 世帯分 ※鹿沼市（約 40,000 世帯）×7.2 倍 ○オスのアフリカ象に置き換えると  130,237 頭分

2 再生可能エネルギーの導入

二酸化炭素を排出しない「太陽光発電」などの導入をさらに拡大させる必要があります。

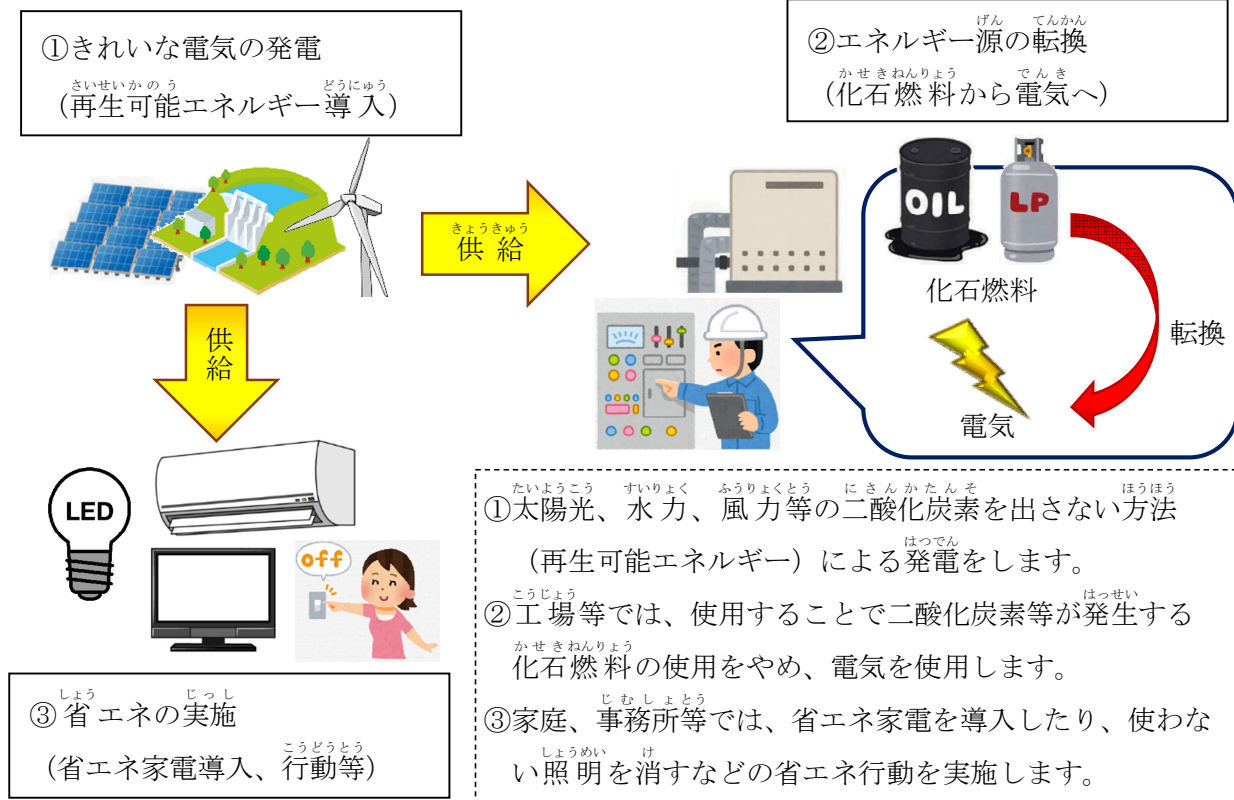
令和 12（2030）年度までの目標	令和 32（2050）年度までの目標
<u>235,303 MWh に拡大！！</u> ○一般的な世帯の電気使用量でいうと  58,142 世帯分 ※鹿沼市（約 40,000 世帯）×1.5 倍 ○太陽光発電で発電した場合は  東京ドーム 43.8 個分の面積（204ha）が必要	<u>605,551 MWh に拡大！！</u> ○一般的な世帯の電気使用量でいうと  149,629 世帯分 ※鹿沼市（約 40,000 世帯）×3.7 倍 ○太陽光発電で発電した場合は  東京ドーム 112 個分の面積（527ha）が必要

コラム3

～ 2050 年脱炭素 ～ 具体的に何をすればいいの！？

鹿沼市が、2050 年までに二酸化炭素排出の実質ゼロ（2050 年脱炭素）を達成するためには、行政、市民、事業者等が一丸となって取り組む必要があります。

1 取組の大きな方向性



2 家庭でできる取組の一例

できることから、無理せず取り組んでみましょう。



○省エネ家電に替える！

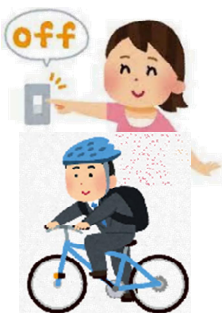
普段使う家電製品を省エネ家電にすることで、電気の使用量を減らすことができます。国が省エネラベルを定めているので、家電を購入する場合は、気にしてみましょう。LED照明も有効です。

○こまめに電気を消す！

当たり前のことですが、効果は高く、非常に有効な取組です。
エアコンを使う場合は、「室内の温度が28度」になるようにしましょう。設定温度ではない点に注意です。

○近場には徒歩や自転車で行く！

徒歩や自転車で移動することで、二酸化炭素の排出量を抑えることができます。ただし、気温や体調を考慮し、無理はしないようにしましょう。



(4) ごみ・リサイクル

① 6種15分別によるリサイクルの推進

ごみを減らしリサイクルを進めるために、家庭から出るごみを燃やすごみ、燃やさないごみ、資源物、危険ごみ、粗大ごみ、処理困難物の6種15分別に分けて出してもらっています。

ペットボトル、白色トレイ、プラスチック、紙類やビン・缶などの資源物は、リサイクル工場で再び資源として生まれ変わります。



白色トレイ回収ボックス

② 小型家電の回収・リサイクル

平成27年9月から、鹿沼市では小型家電のリサイクルが始まりました。市役所や環境クリーンセンター、各コミュニティセンターに設置された回収ボックスに使用済の小型家電を投入すると、それらに含まれるレアメタル(※)などが、資源として再利用されます。

※レアメタル(希少金属)とは、鉄や銅、アルミニウムなどよく使われている金属と違い、流通量の少ない貴重な金属です。



小型家電回収ボックス



回収品目(例) ※40 cm×20 cm未満のもの

③リサイクルセンター（エコハウス リックル）の運営^{うんえい}

リサイクルセンターは、リサイクル活動について、^{じょうほう}情報を^{こうかん}交換したり、^{じっさい}実際に体験や学習を行ったりする場所です。

この施設は、^{しせつ}施設は、^{エヌピーオー}NPO法人^{かんり}ぶうめらんが^{うんえい}管理運営をしています。



リサイクルセンター
エコハウス リックル（上殿町）

【リサイクルショップ】



- ・ 家庭で不用になったものを安く販売しています。

【研修室^{けんしゅうしつ}】



- ・ 会議や研修の場所として、貸し出しています。

【リユース自転車販売】



- ・ 再利用出来そうな自転車を販売しています。

【ストックヤード】



- ・ その他のプラをブロック状にまとめ、リサイクル工場へ運ばれるまでの間、ここで保管します。

【リサイクル保管庫^{ほかんこ}】



- ・ 不用になった家具などを、リサイクル品として^{はんばい}販売しています。

④リサイクル品の^{ていきょう}提供、^{はんばい}販売

不用品として持ちこまれた中で再使用出来そうな自転車や家電、家具や本などを市民向けにリサイクルセンターで安く^{はんばい}販売しています。

⑤下水^{おでい}汚泥の再利用



エコスラグ

家庭から出た生活^{はいすい}排水をきれいに
するときに発生した^{おでい}汚泥を、宇都宮市
にある^{しげんか}資源化工場へ運びます。そこで、
砂のようなエコスラグに加工し、工事
の材料として使っています。

⑥B-DASH プロジェクト

脱水乾燥システムによる下水汚泥の肥料化を行っています。

⑦^{たいひか}堆肥化センター（ほっこりー）

^{たいひか}堆肥化センターでは、牛やぶたなどの^{かちく}家畜が出した^{はい}排せつ物、
米を作ったときに^{がら}出たもみ殻やおが粉などを原料にして、
^{たいひ}堆肥（^{ひりょう}肥料）を作っています。



^{たいひか}堆肥化センター ほっこりー（油田町）



^{かんじゅくたいひ}かぬま完熟堆肥2号

⑧ごみ処理施設の適正な管理

環境クリーンセンター(ごみ処理施設)の煙突からは、有害なダイオキシン類などを環境基準値以下に除却した水蒸気が出ています。

市では、ダイオキシン類の濃度を下表のとおり毎年調査し、環境基準を守るよう努めています。

【ダイオキシン類濃度 調査結果】(令和6年度)

	1号炉	2号炉	排出基準値
ダイオキシン類濃度 (単位：ナノグラム※)	0.51	4.6	5.0

※ナノグラムは、1グラムの10億分の1



鹿沼市環境クリーンセンター（上殿町）

(5) 生活排水対策

①下水道

川や地下水の水質の汚染を防止するため、市街地で下水道の工事（新しい下水管の埋設や古くなった下水管の補強や交換など）を進めています。



下水道工事

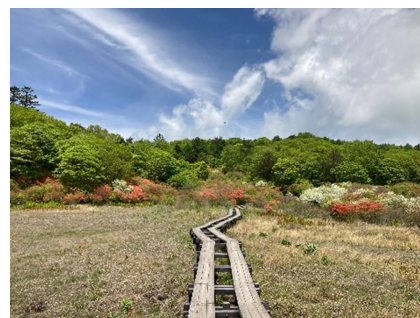
②浄化槽

下水道の対象とならない地域では、浄化槽の設置を進めています。浄化槽を設置する時には、補助金を交付しています。

(6) 前日光県立自然公園生態系保全活動

①井戸湿原乾燥化対策

井戸湿原を中心とした横根高原には、貴重な生きものが生育、生息しています。植林されたカラマツの影響等により湿原は乾燥してしまうため、カラマツの伐採や、湿原内に水を長く留めるための帯工を設置しています。



井戸湿原

②植物保護対策

井戸湿原内の植物を鹿等の野生獣被害から守るため、湿原に侵入させないための柵を湿原周辺に設置しています。



帯工



侵入防止柵